

平成29年度  
熊本地震に伴う健康調査  
報告書

熊本県健康福祉部健康局

健康づくり推進課



# 目 次

I. 調査の概要.....	1
調査目的.....	1
調査方法.....	1
回収結果.....	1
調査結果利用上の注意.....	1
II. 調査結果.....	2
(1) 世帯の状況.....	2
(2) 回答者の属性.....	3
(3) 健康診断や人間ドックの受診状況.....	5
(4) 体調の状況.....	7
(5) 病気の有無.....	8
治療の状況.....	9
未治療・治療中断の理由.....	10
(6) 地震前後の生活習慣の変化.....	12
①運動や体を動かす機会.....	12
②外出の機会.....	14
③食生活.....	16
④飲酒（お酒の量）.....	17
⑤喫煙（たばこ）.....	18
⑥睡眠.....	19
⑦歯と口腔.....	20
(7) 行事や交流の場への参加状況.....	22
(8) 悩みを相談できる相手の有無.....	24
(9) 介護保険の認定や障害者手帳の有無.....	25
介護保険認定者・障害者手帳所持者の内訳.....	26
サービス利用の有無.....	28
(10) 健康面での気になること.....	30
市町村、保健センター、地域支え合いセンター、医療機関等への相談の有無.....	30
保健師等による訪問や電話相談の希望の有無.....	31

## I. 調査の概要

### 調査目的

熊本地震被災後の県民の健康状態を把握し、必要な施策につなげるとともに、第4次くまもと21ヘルスプラン（健康増進計画）をはじめ各種計画の基礎資料とすること、また、みなし仮設住宅等の入居者については、支援を希望する人を把握し必要なサービスにつなげることを目的とする。

### 調査方法

- ①調査地域 熊本県内外
- ②調査対象 みなし仮設住宅等に入居している19歳以上の男女
- ③配布数 13,860世帯
- ④抽出方法 みなし仮設住宅等に入居している世帯
- ⑤調査方法 郵送法
- ⑥調査期間 平成29年7月1日～20日

### 回収結果

- ①回収数 6,682世帯（12,483人）
- ②回収率 48.2%

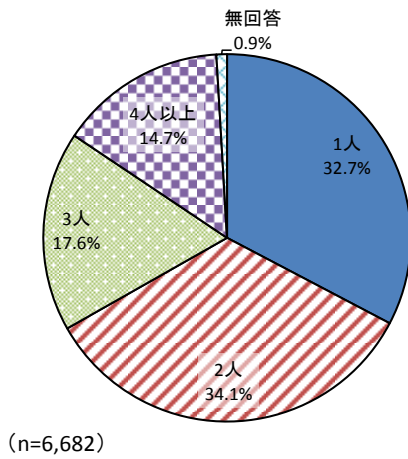
### 調査結果利用上の注意

- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合がある。
- ・単一回答はSAで表示、複数回答はMAで表示する。
- ・有効回収数の中には性別未記入者が114人おり、男女別に示している結果については、すべて未記入者を除いた数で表示する。また、年齢未記入者が297人おり、年代別に示している結果については、すべて未記入者を除いた数で表示する。
- ・住所の変化は、市町村の移動があった場合に「住所の変化あり」とする。
- ・集計対象は回収数の12,483人（8月8日までにデータ入力済みのもの）である。

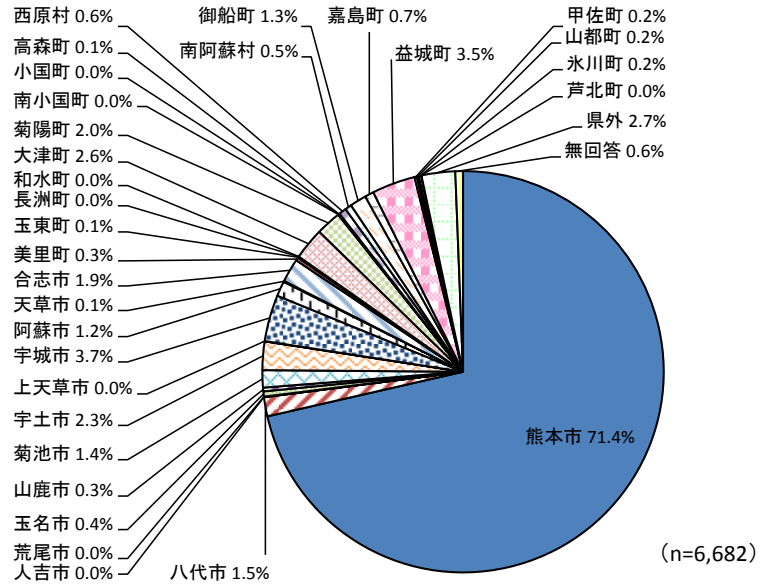
## II. 調査結果

### (1) 世帯の状況

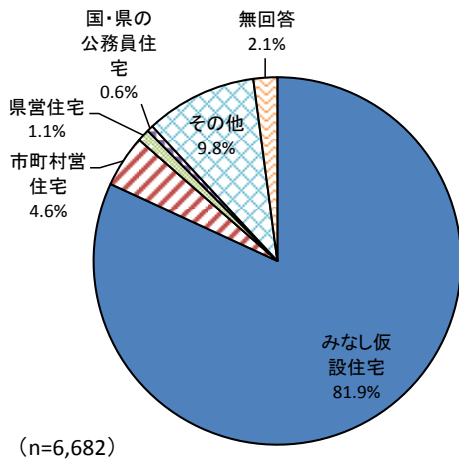
居住人数



現住所

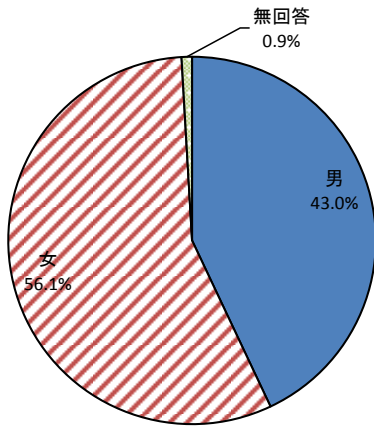


住宅種別



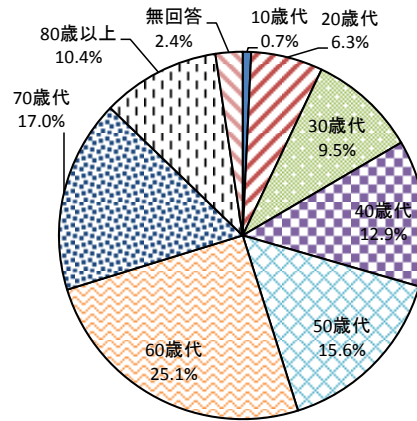
## (2) 回答者の属性

性別



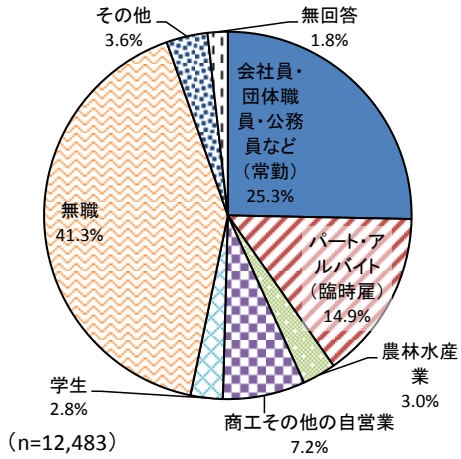
(n=12,483)

年齢



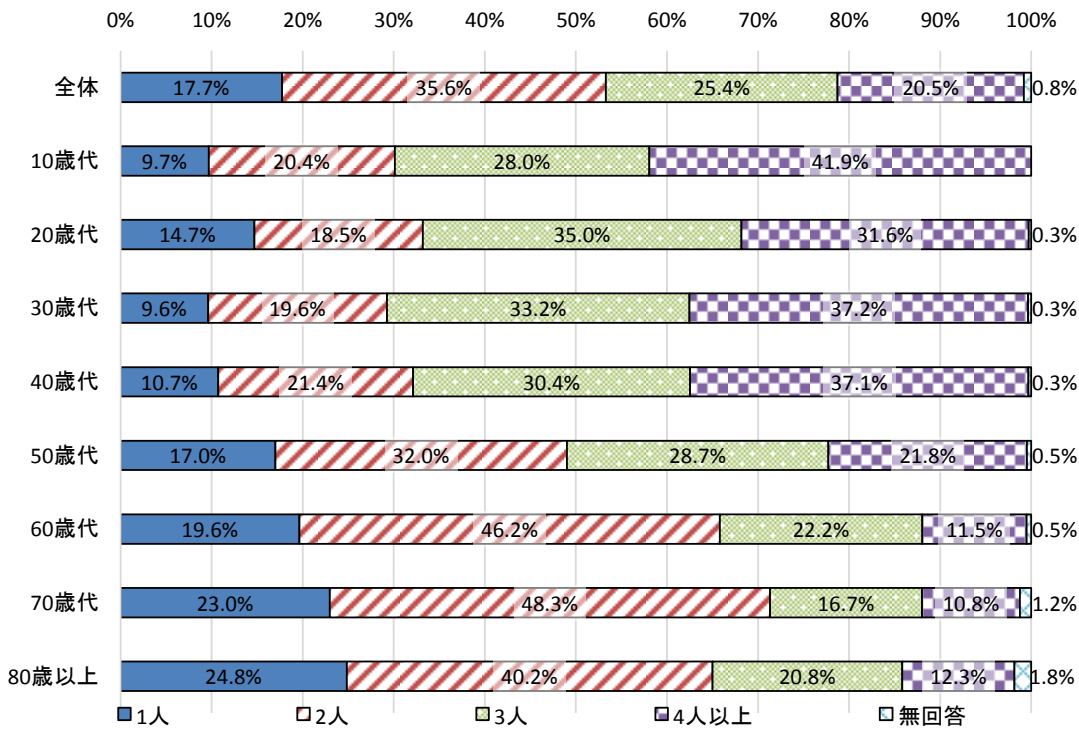
(n=12,483)

職業

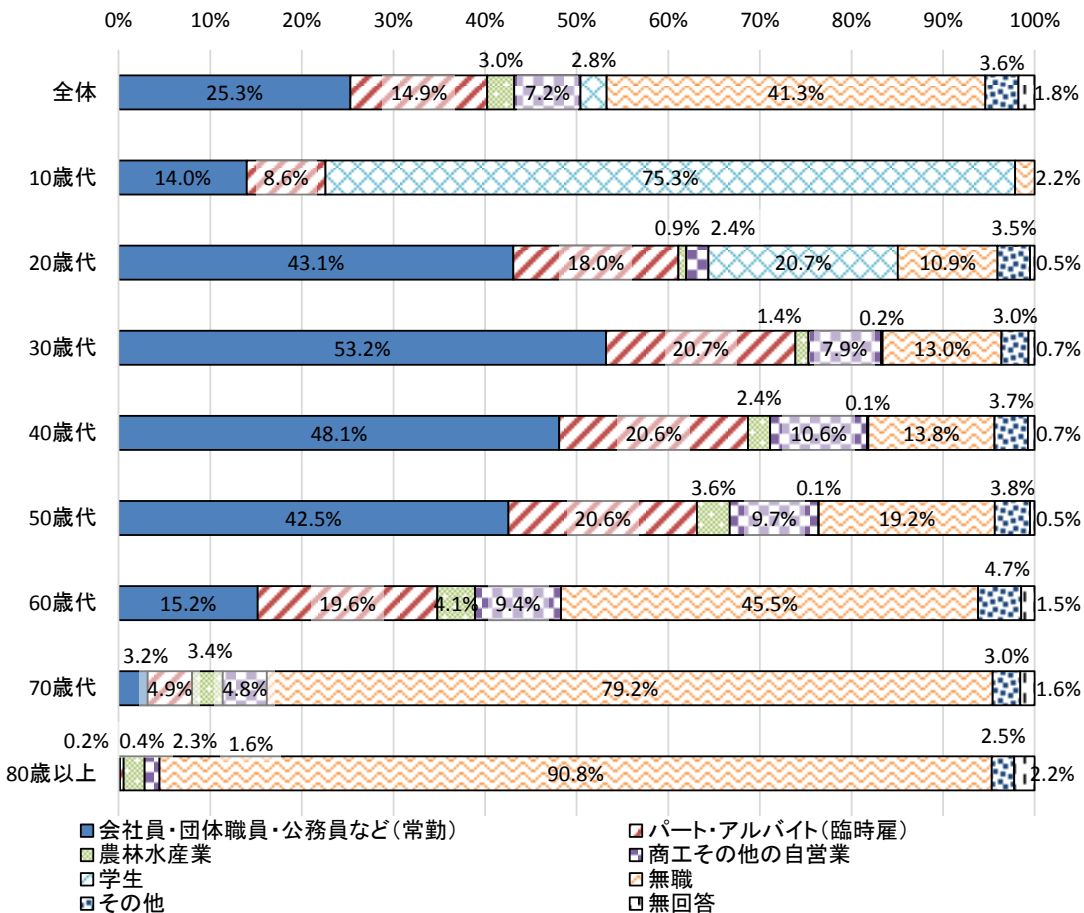


(n=12,483)

## 年代別×世帯人数



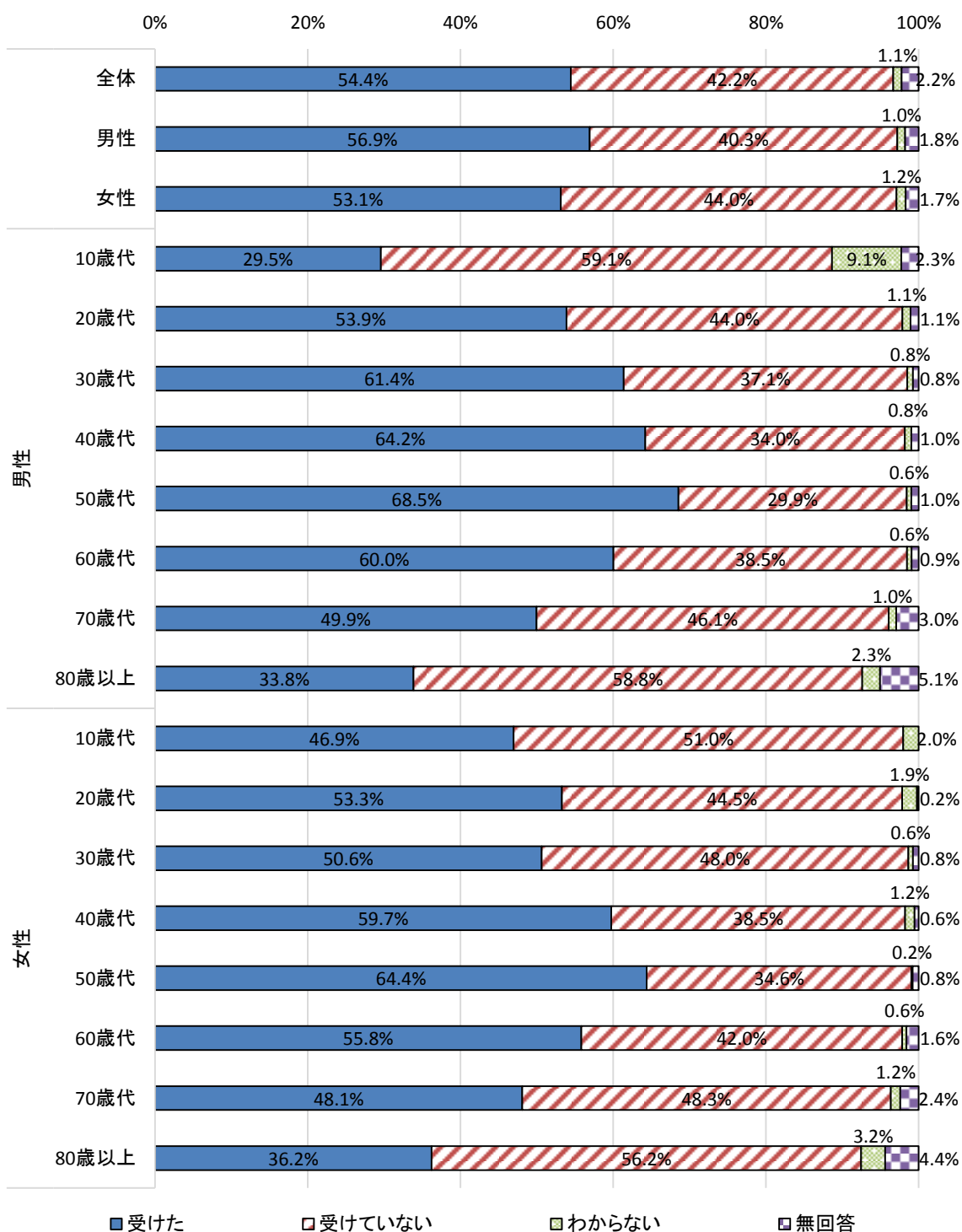
## 年代別×職業別



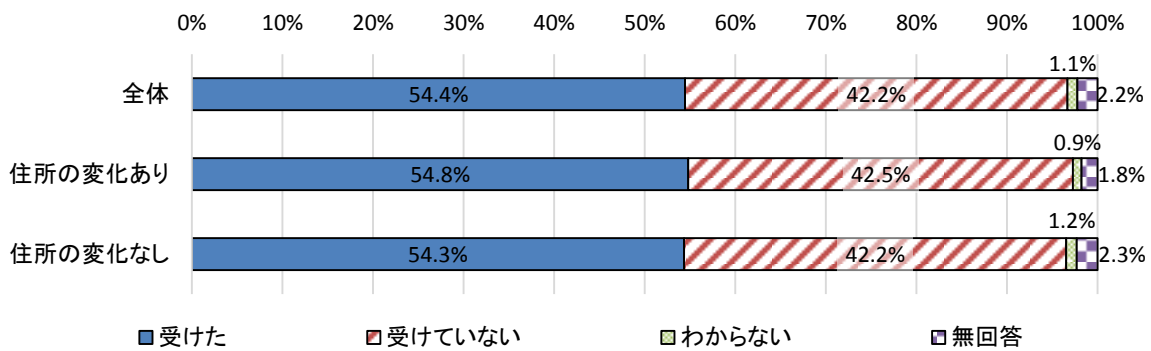
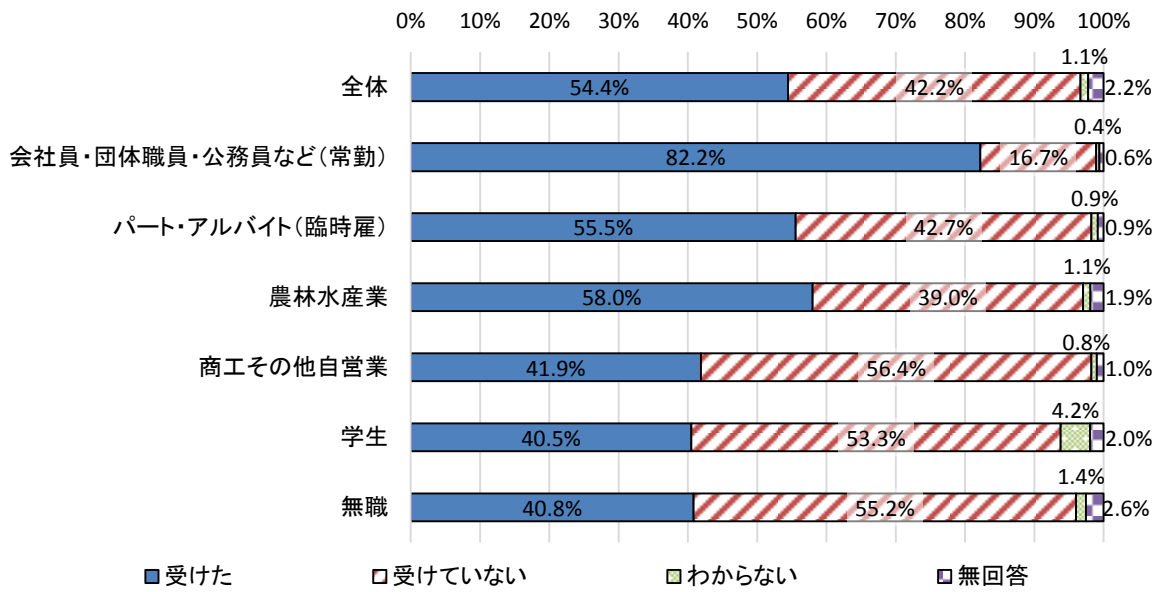
### (3) 過去1年間の健康診断や人間ドックの受診状況

(SA)

全体の54.4%が健康診断や人間ドックを受けたと回答しており、男性は56.9%、女性は53.1%であった。性別・年齢で見ると、男性は30歳代～60歳代では60%以上の人が受けているが、女性では50歳代のみ60%以上であり、20歳代～60歳代は50%台である。



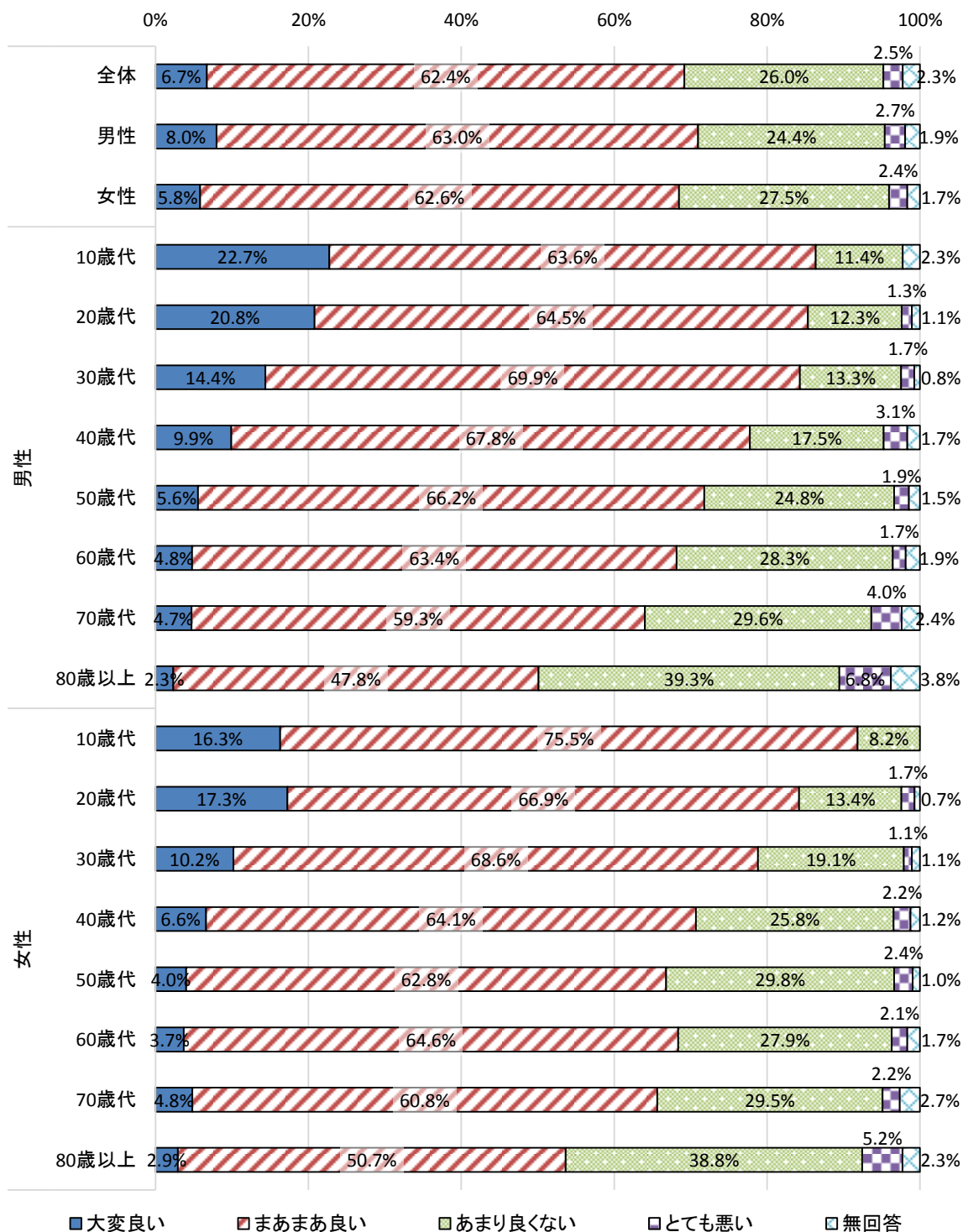




#### (4) 体調の状況

(SA)

全体の 69.2%が「良い」（「大変良い」と「まあ良い」の合計）と回答しており、男性は71.0%、女性 68.5%であった。性別・年齢で見ると、男女ともに年齢区分が上がるごとに「良い」の割合が減少する傾向がある。

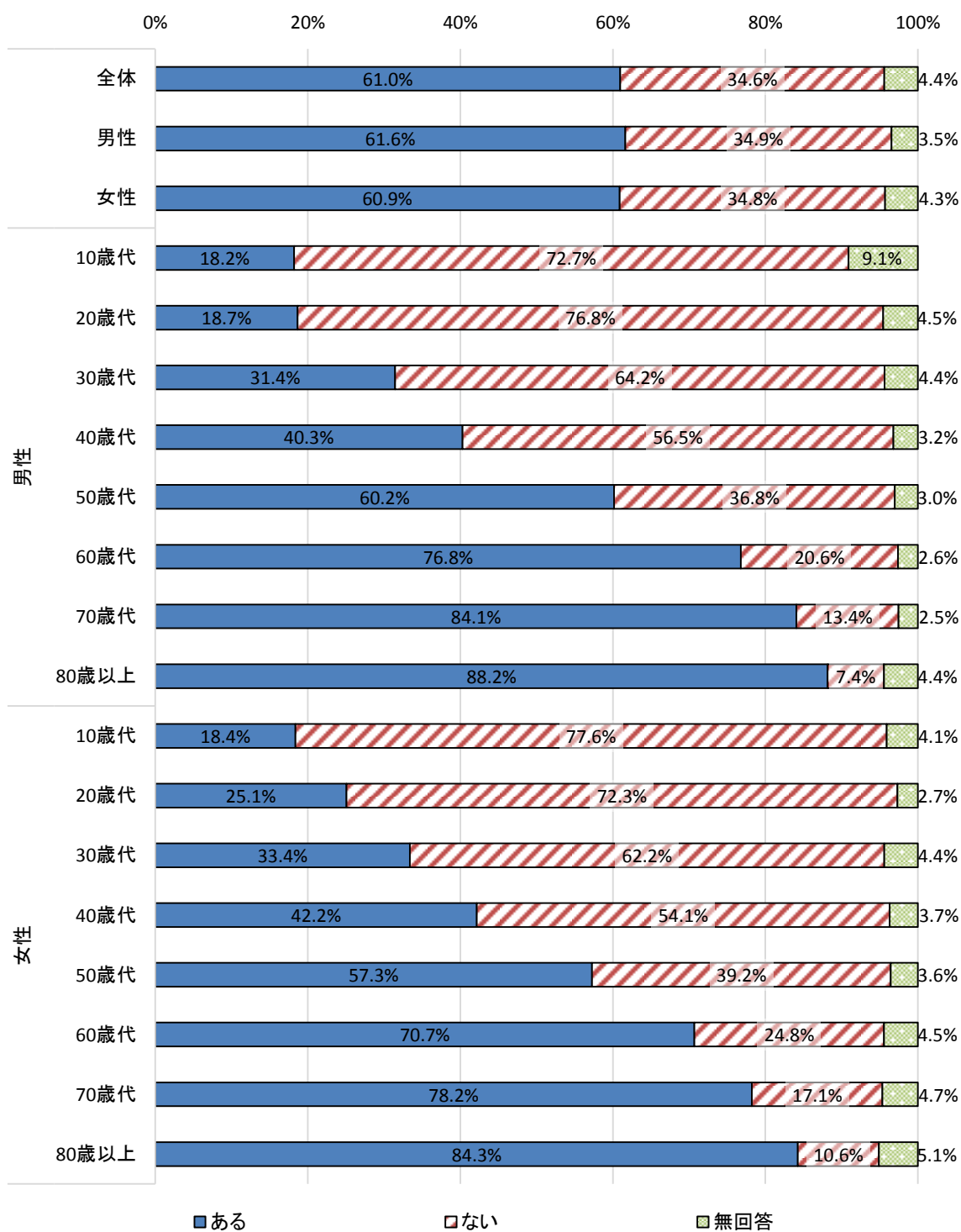


## (5) 病気の有無

(SA)

全体の61.0%が「病気がある」と回答しており、男性は61.6%、女性は60.9%であった。

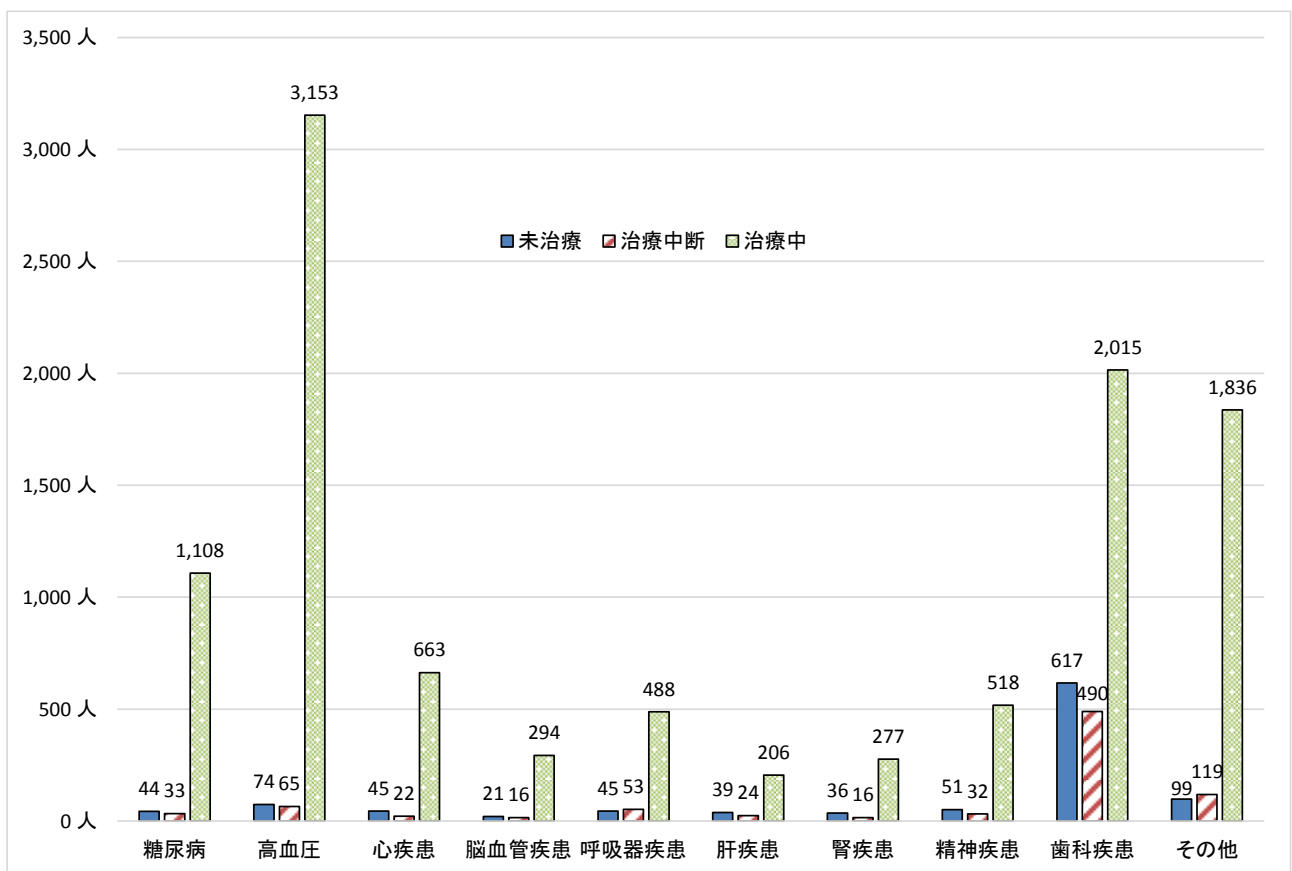
性別・年齢で見ると、男女ともに年齢区分が上がるごとに「病気がある」割合が増加している。



治療の状況  
(SA)

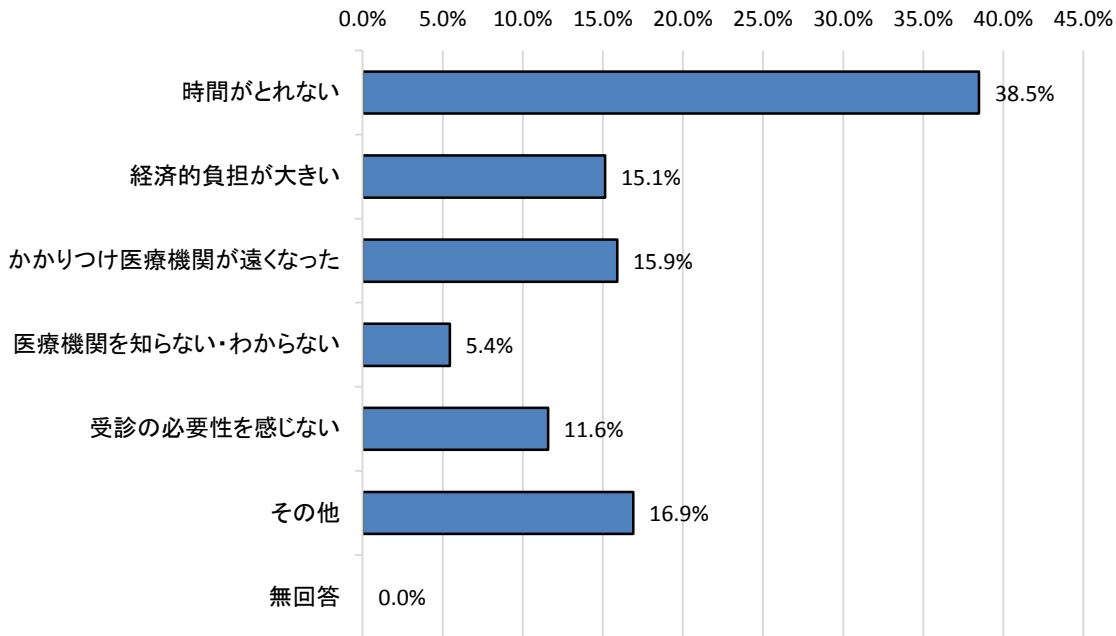
「高血圧」が3,292人と最も患者数が多く、次いで「歯科疾患」が3,122人、「糖尿病」が1,185人となっている。また、「歯科疾患」については、治療をしていない人（「未治療」と「治療中断」の合計）が1,107人と多くなっている。

未治療者の割合は「歯科疾患」（19.5%）、「肝疾患」（14.3%）、「腎疾患」（10.8%）の順に多く、治療中断者の割合は「歯科疾患」（15.5%）、「呼吸器疾患」（8.9%）、「肝疾患」（8.8%）の順に多い。

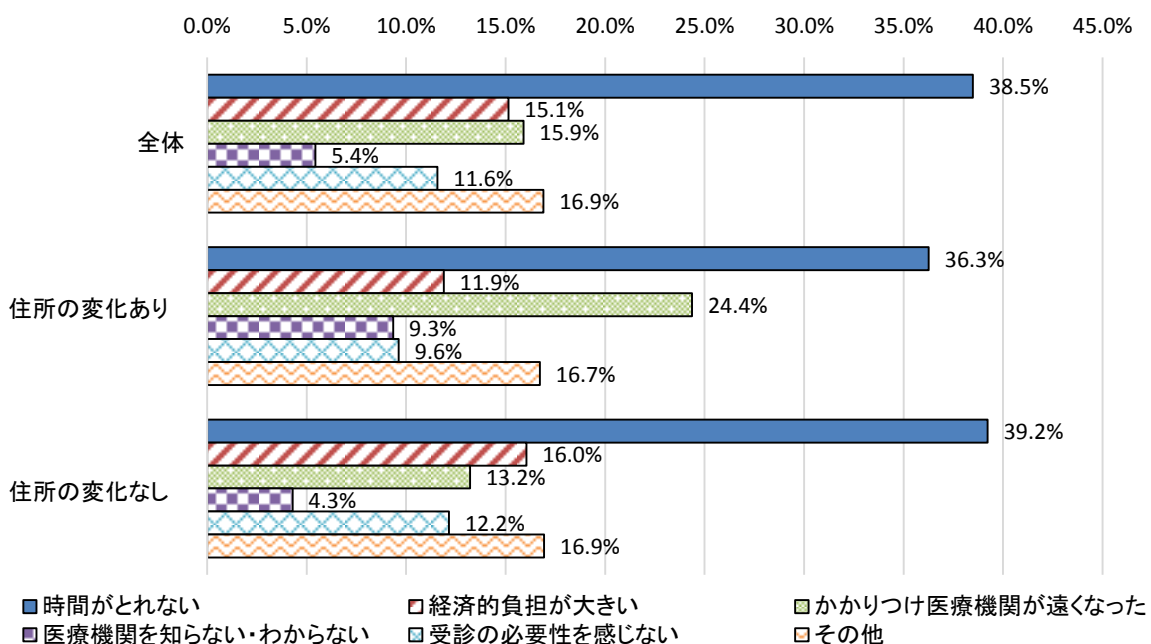


未治療・治療中断の理由  
(MA)

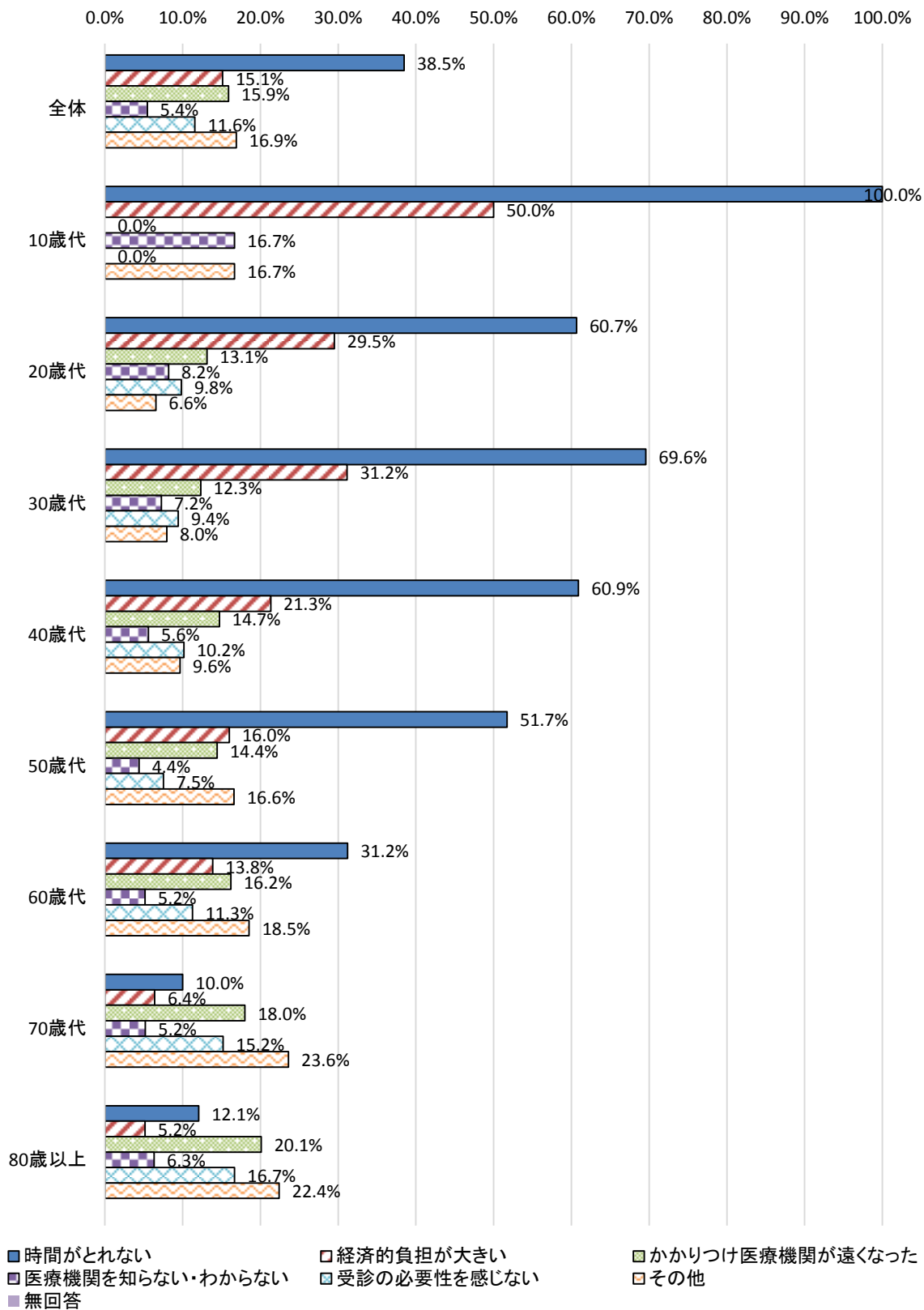
全体では、「時間がとれない」が38.5%と最も高く、次いで「かかりつけ医療機関が遠くなった」が15.9%、「経済的負担が大きい」が15.1%となっている。



住所の変化で見ると、住所の変化があった人は「かかりつけ医療機関が遠くなった」が24.4%、「医療機関を知らない・わからない」が9.3%と住所の変化がなかった人よりも高くなっている。



年齢別に見ると、10歳代～60歳代では、「時間がとれない」が最も高いのに対し、70歳代～80歳以上では「かかりつけ医療機関が遠くなった」が高くなっている。



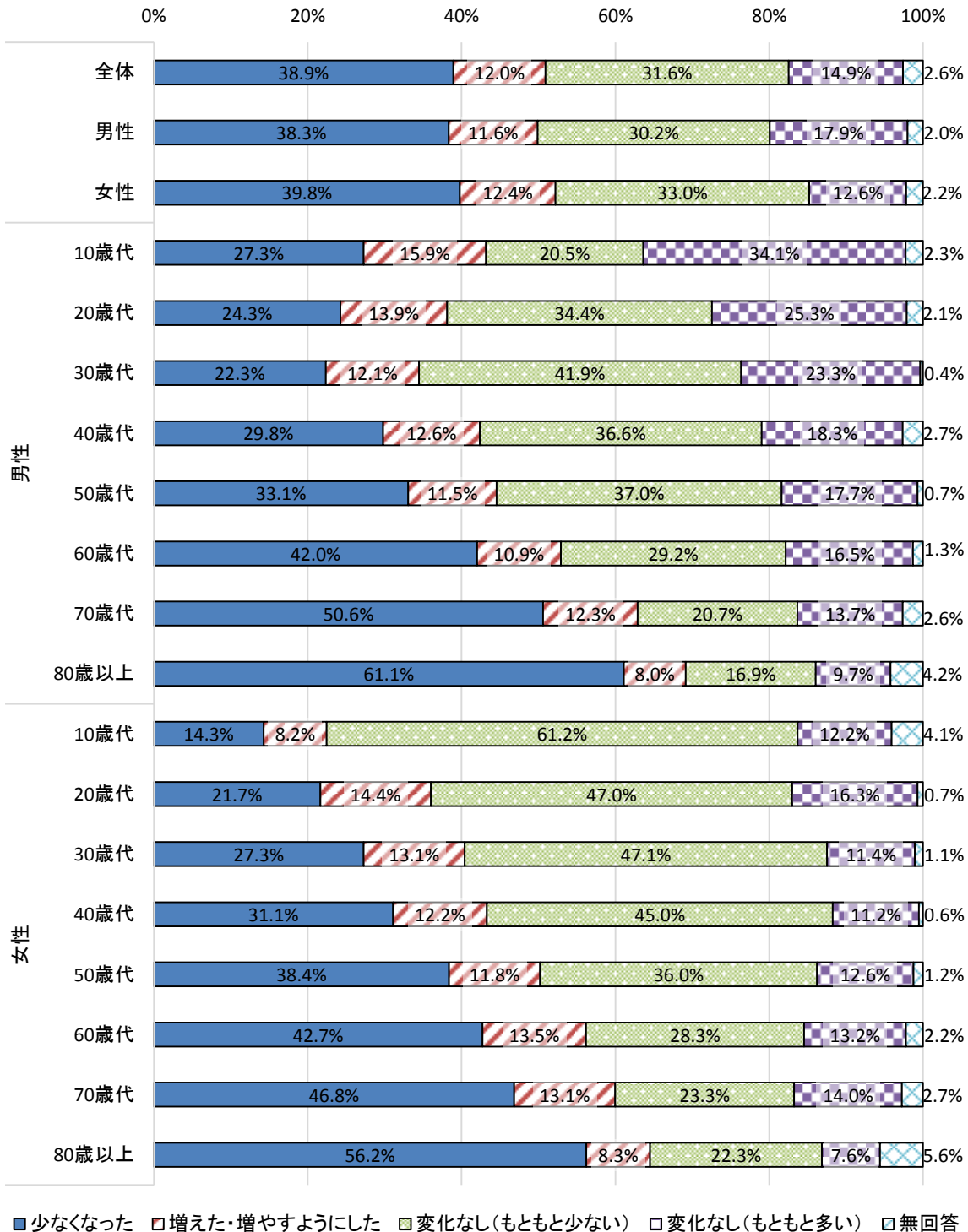
## (6) 熊本地震前後の生活習慣の変化

### ①運動や体を動かす機会

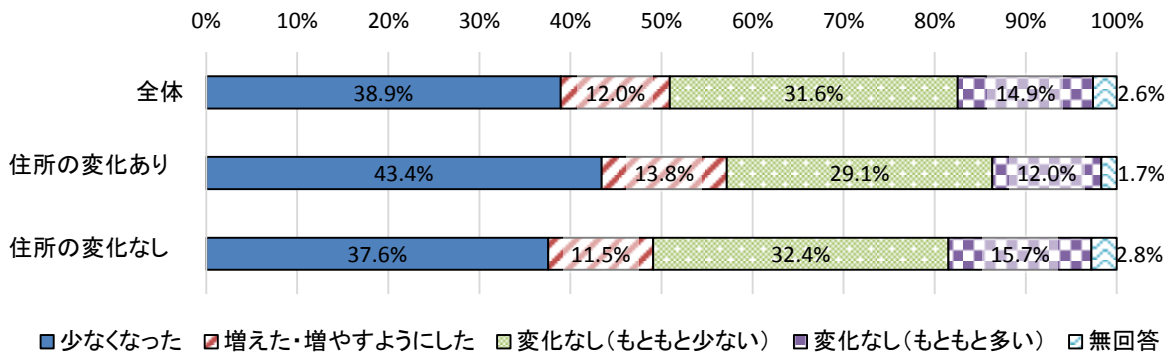
(SA)

全体の 38.9%が「少なくなった」、12.0%が「増えた・増やすようにした」、46.5%が「変化なし」と回答している。

性別で見ると、男性では 30 歳代～80 歳以上、女性では 10 歳代～80 歳代にかけて、年齢区分が上がるごとに「少なくなった」の割合が増加している。



住所の変化で見ると、住所の変化があった人は「少なくなった」が 43.4%、住所の変化がなかった人は 37.6%と、住宅の変化があった人の方が高くなっている。

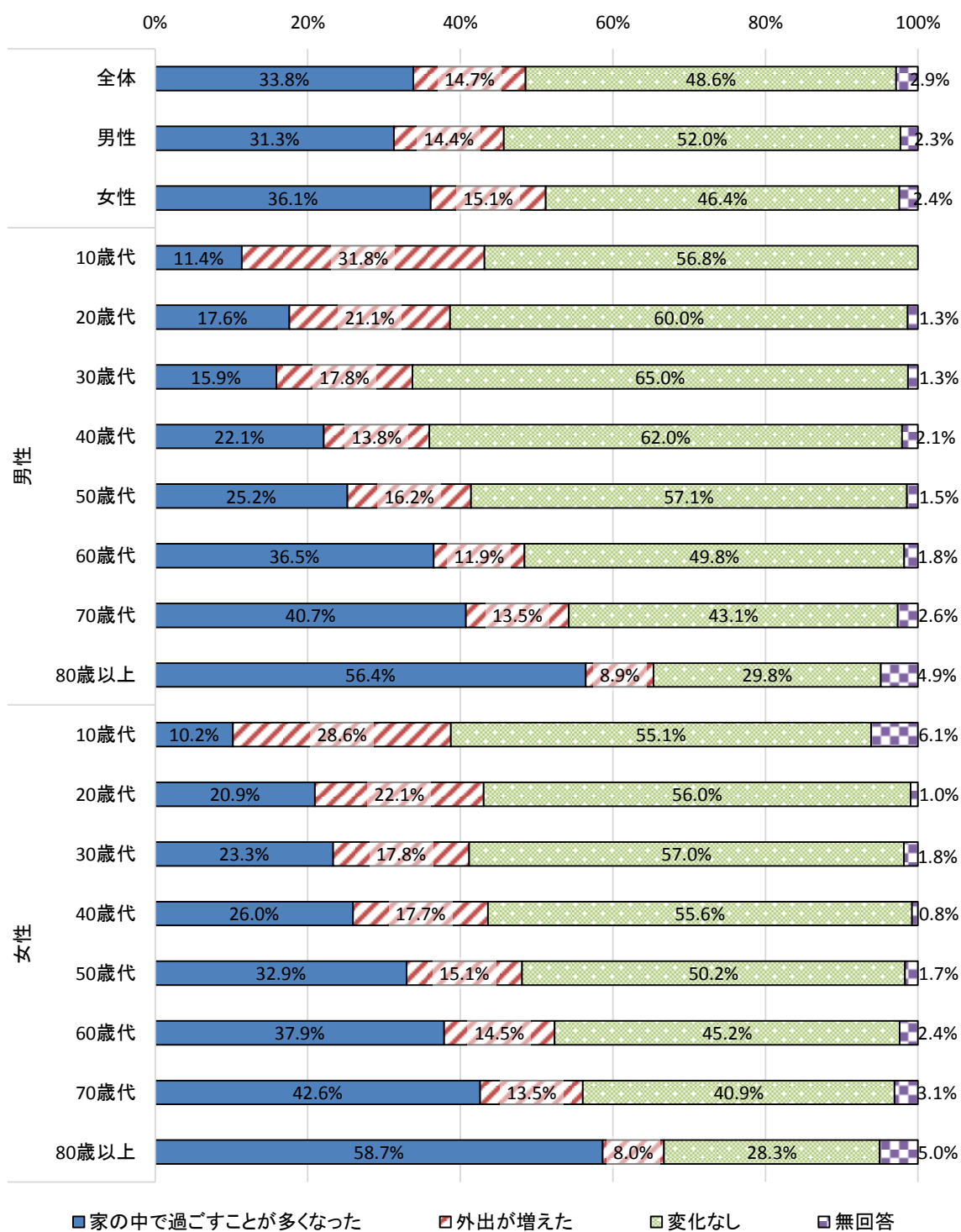




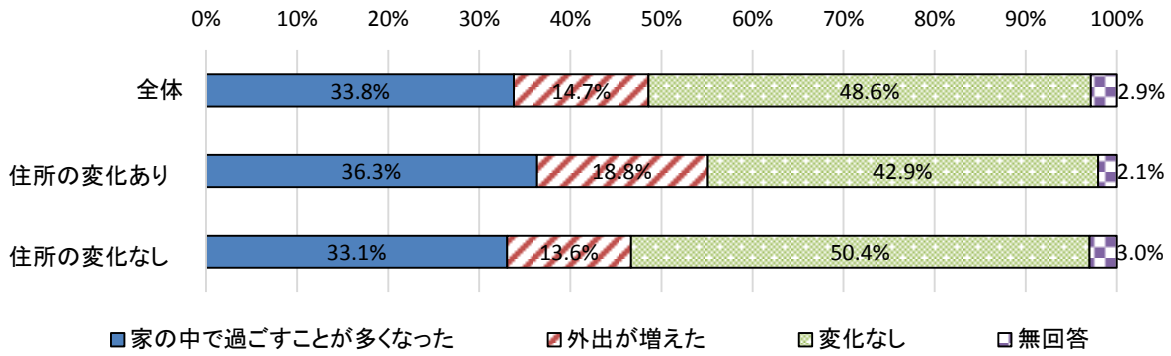
## ②外出の機会 (SA)

全体の 33.8%が「家の中で過ごすことが多くなった」、14.7%が「外出が増えた」、48.6%が「変化なし」と回答している。

性別で見ると、男性で30歳代～80歳以上、女性では10歳代～80歳代にかけて、年齢区分が上がるごとに「家の中で過ごすことが多くなった」の割合が増加している。



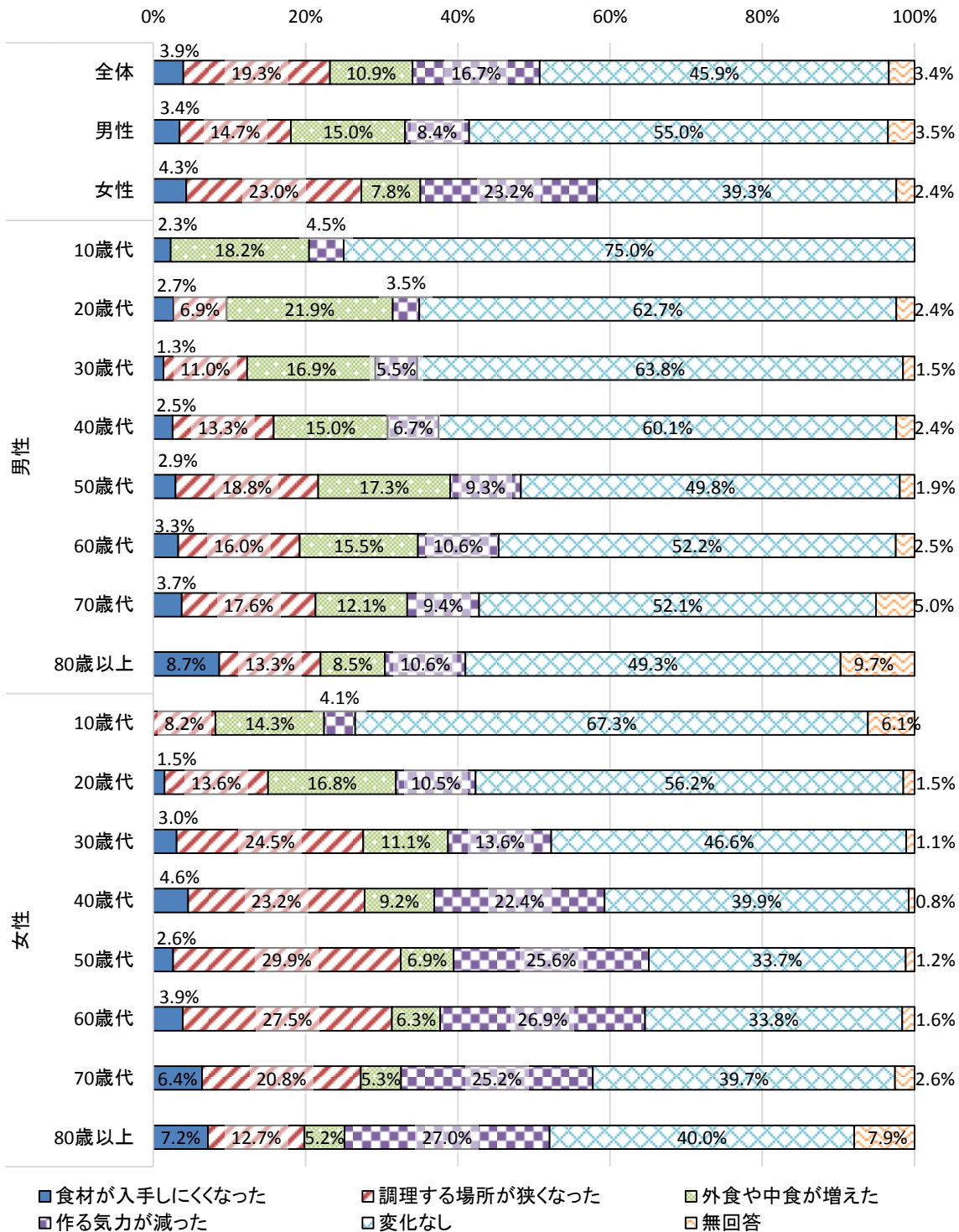
また、住所の変化で見ると、住所の変化があった人は「外出が増えた」が 18.8%、住所の変化がなかった人は 13.6%と、住所の変化があった人の方が高くなっている。



③食生活  
(SA)

全体の 3.9%が「食材が入手しにくくなった」、19.3%が「調理する場所が狭くなった」、10.9%が「外食や中食が増えた」、16.7%が「作る気力が減った」、45.9%が「変化なし」と回答している。

性別で見ると、女性では、「作る気力がなくなった」のは40歳代で最も高い。

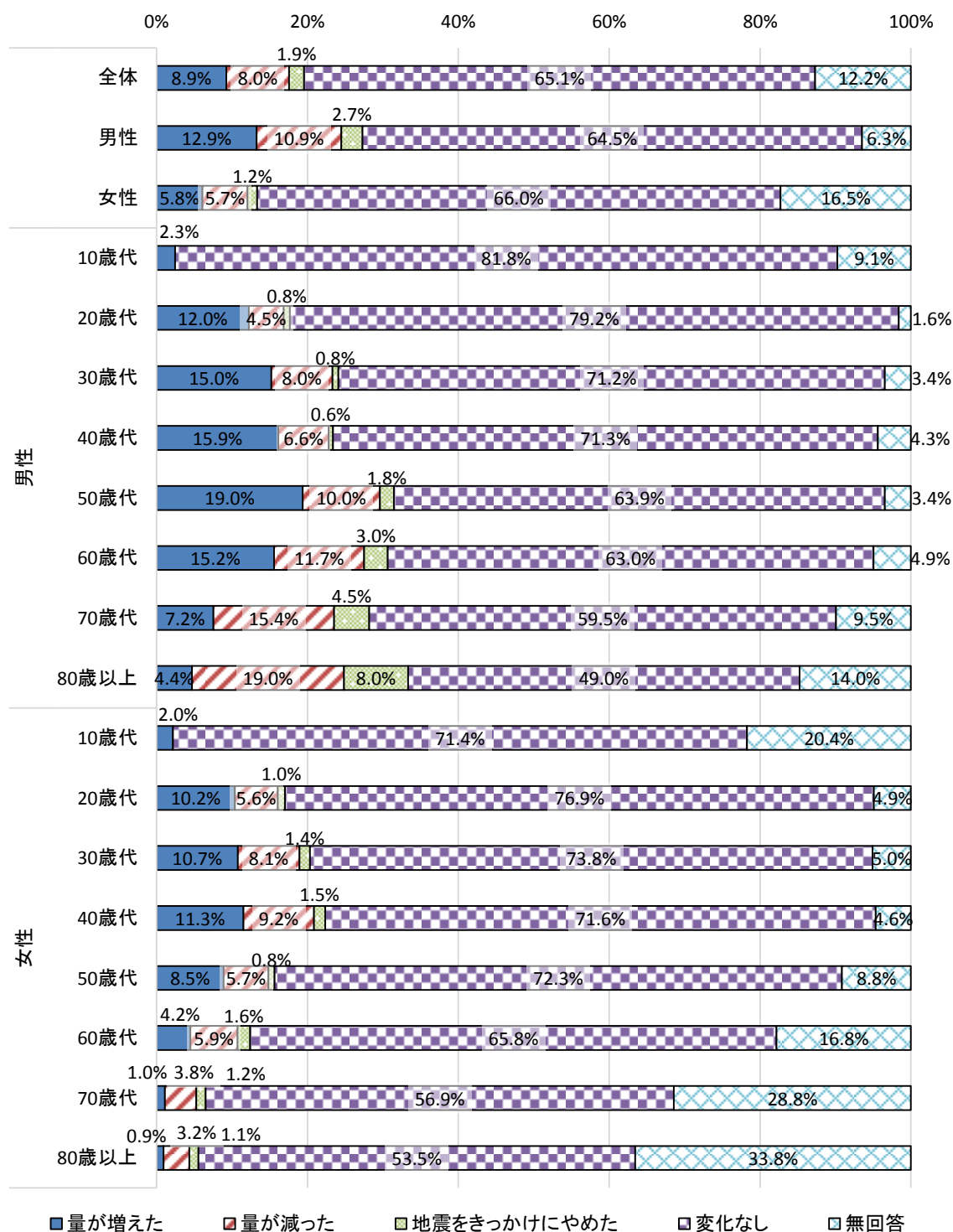


#### ④飲酒（お酒の量）

(SA)

全体の8.9%が「量が増えた」、8.0%が「量が減った」、1.9%が「地震をきっかけにやめた」、65.1%が「変化なし」と回答している。

性別で見ると、「量が増えた」と回答しているのは、男性では50歳代が最も高く、20歳代～60歳代で10%以上である。女性では、40歳代が最も高く、20歳代～40歳代で10%以上である。

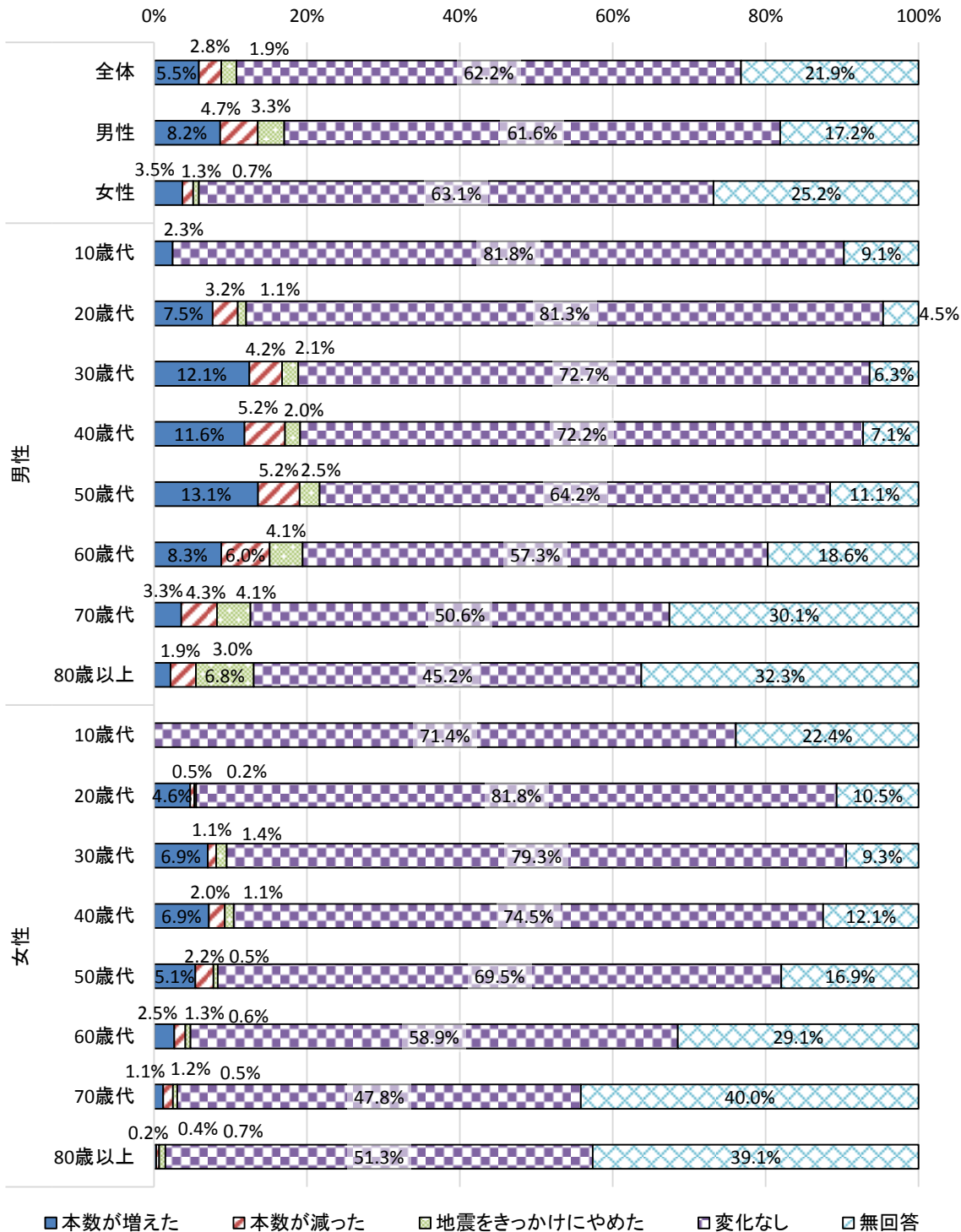


⑤喫煙（たばこ）

(SA)

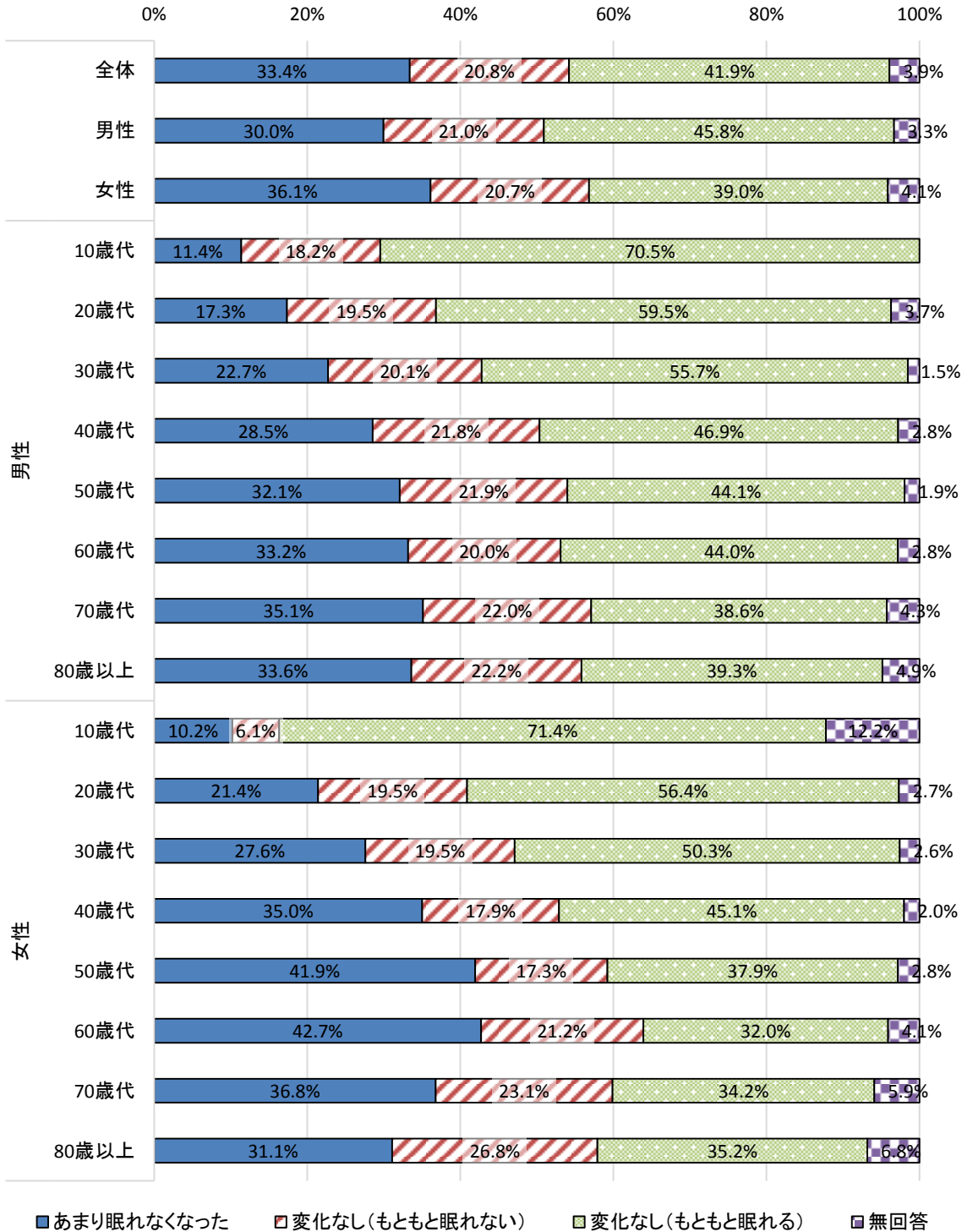
全体の5.5%が「本数が増えた」、2.8%が「本数が減った」、1.9%が「地震をきっかけにやめた」、62.2%が「変化なし」と回答している。

性別で見ると、「本数が増えた」と回答しているのは、男性では50歳代で最も高く、30歳代～50歳代で10%以上である。女性では、30歳代40歳代で最も高く、30歳代～50歳代で5%以上である。



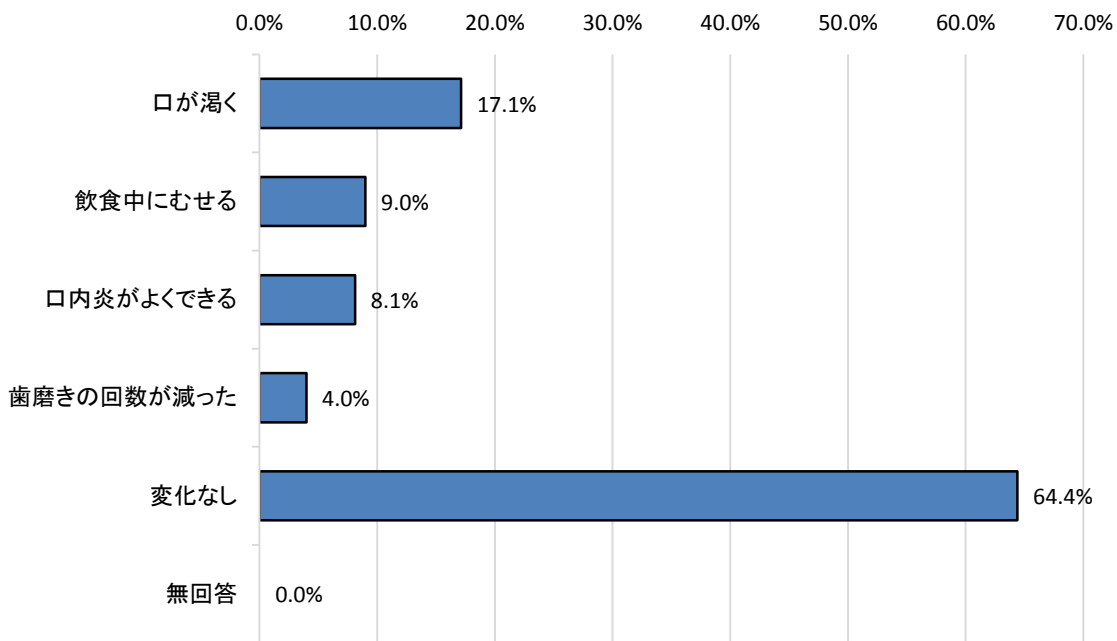
⑥睡眠  
(SA)

全体の33.4%が「あまり眠れなくなった」とし、男性では30.0%、女性では36.1%で男性よりも女性の方が高くなっている。また、「あまり眠れなくなった」との回答が最も多かったのが60歳代の女性で42.7%である。

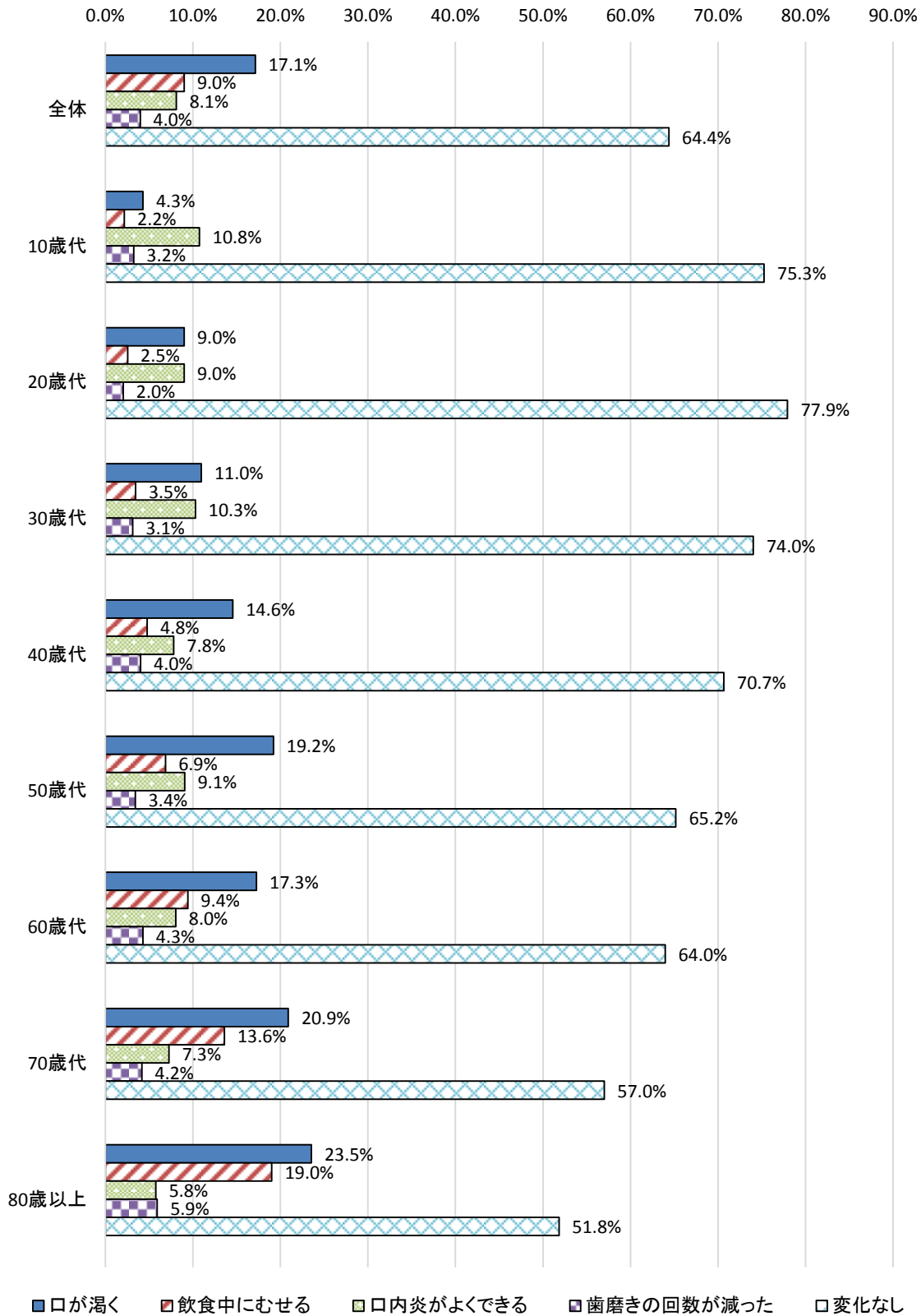


⑦歯と口腔  
(MA)

全体では、「変化なし」が64.4%と最も高く、次いで「口が渇く」が17.1%、「食事中にむせる」が9.0%となっている。



年齢別に見ると、年齢別にみると、20歳代～80歳以上で年齢区分が上がるごとに「変化なし」の割合が下がり、他の項目の割合が増加している。

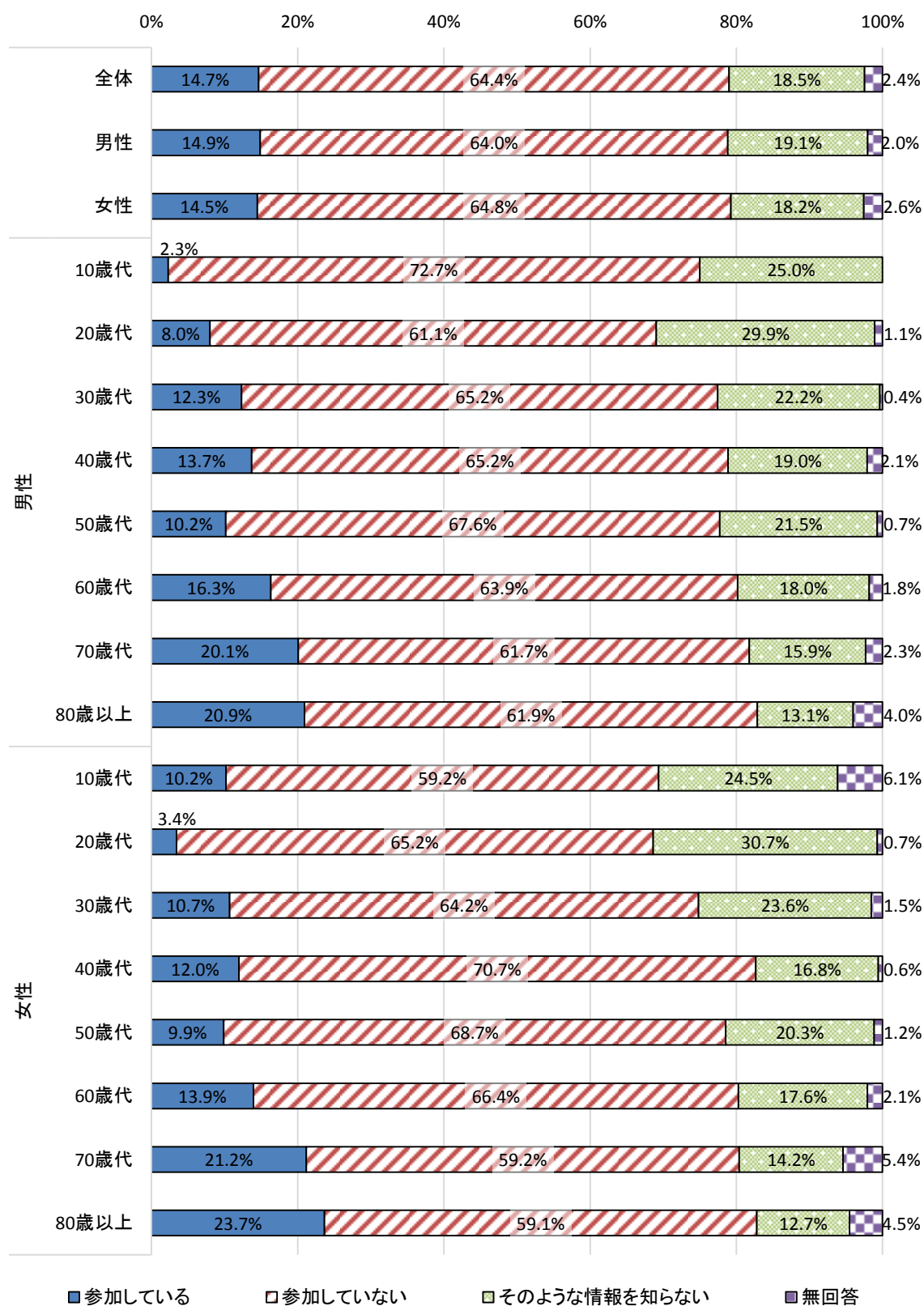




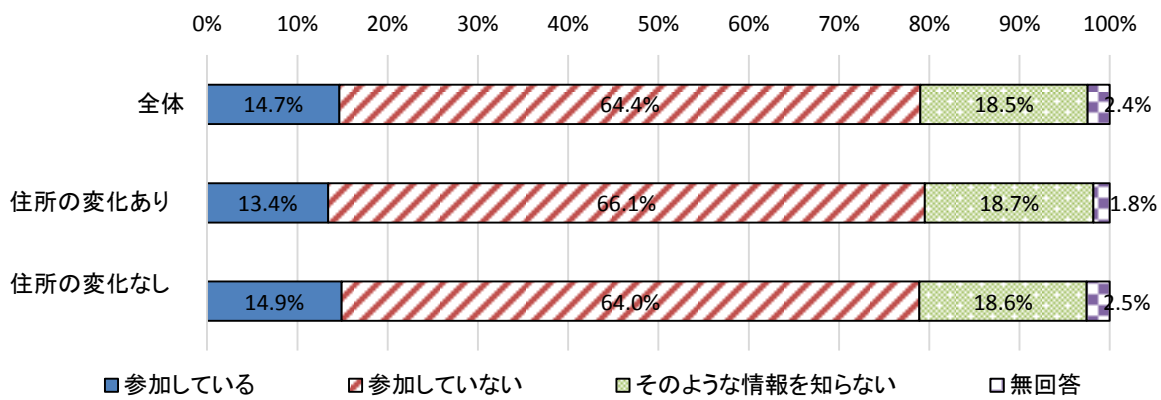
## (7) 行事や交流の場への参加状況

(SA)

全体の 64.4%が「参加していない」、18.5%が「そのような情報を知らない」とし、男性では64%、女性では64.8%が「参加していない」と回答している。



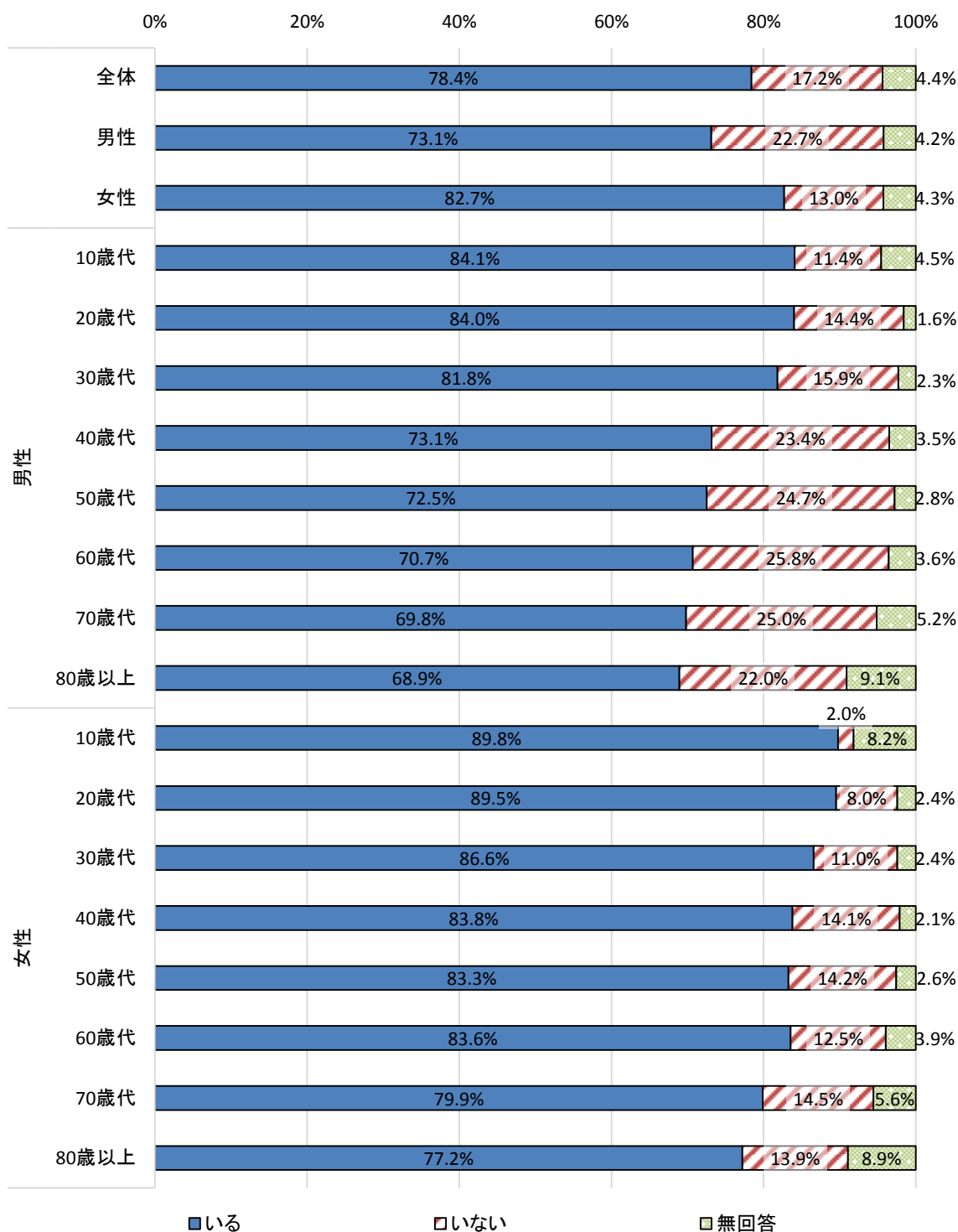
住所の変化で見ると、「住所の変化があった人」の 13.4%、「住所の変化がない人」の 14.9%が「参加している」と回答し、わずかではあるが住所の変化がない人の方が高くなっている。



## (8) 悩みを相談できる相手の有無 (SA)

全体の78.4%が「相談相手がいる」とし、男性では73.1%、女性では82.7%である。また、女性で10歳代～60歳代の80%以上の人が「相談相手がいる」が、男性では10歳代～30歳代が80%以上であり、40歳代以上では、年代が上がるにつれて「相談相手がいる」という割合が低くなっている。

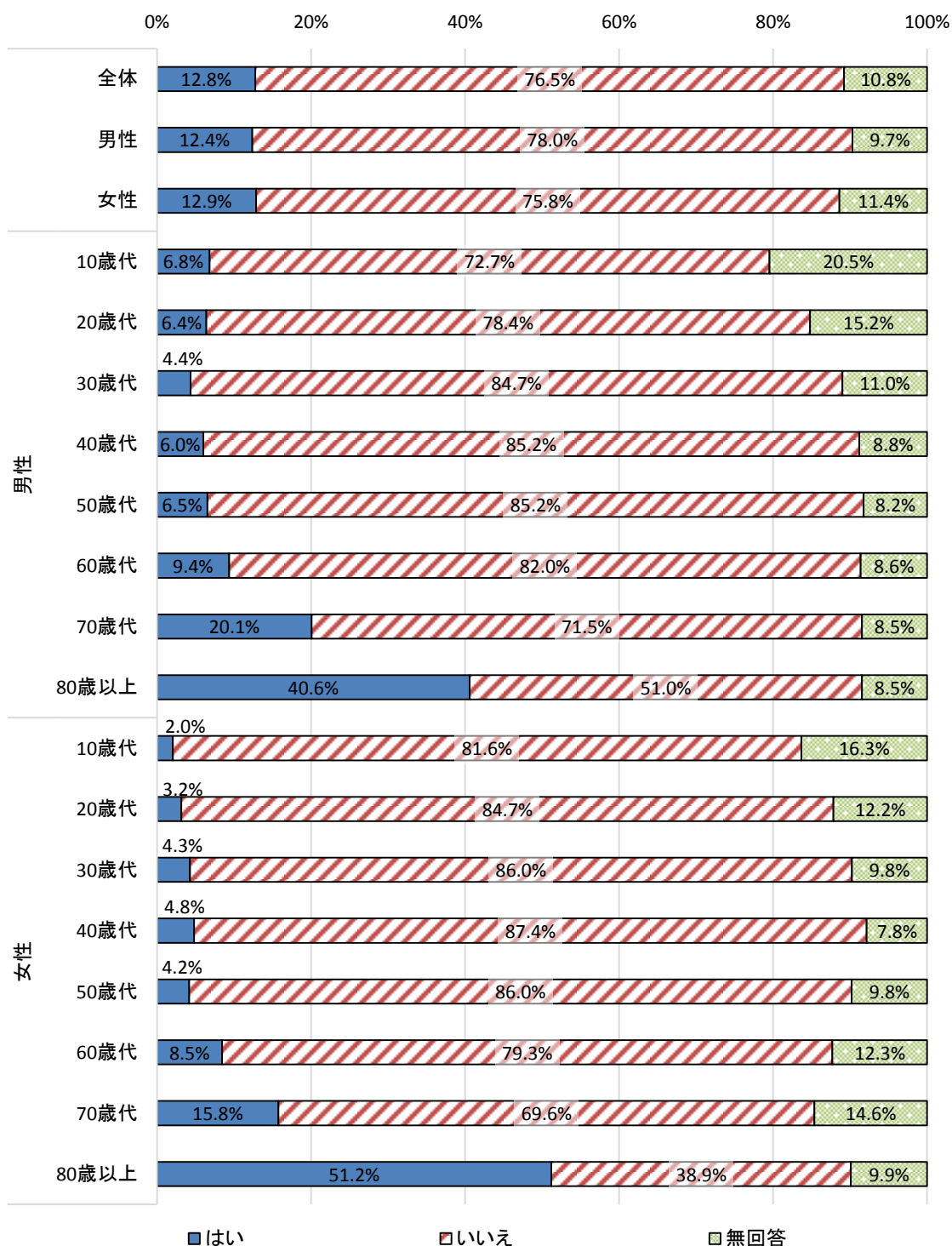
女性よりも男性は悩みを相談できる相手がいる割合が低い。



## (9) 介護保険の認定や障害者手帳の有無 (SA)

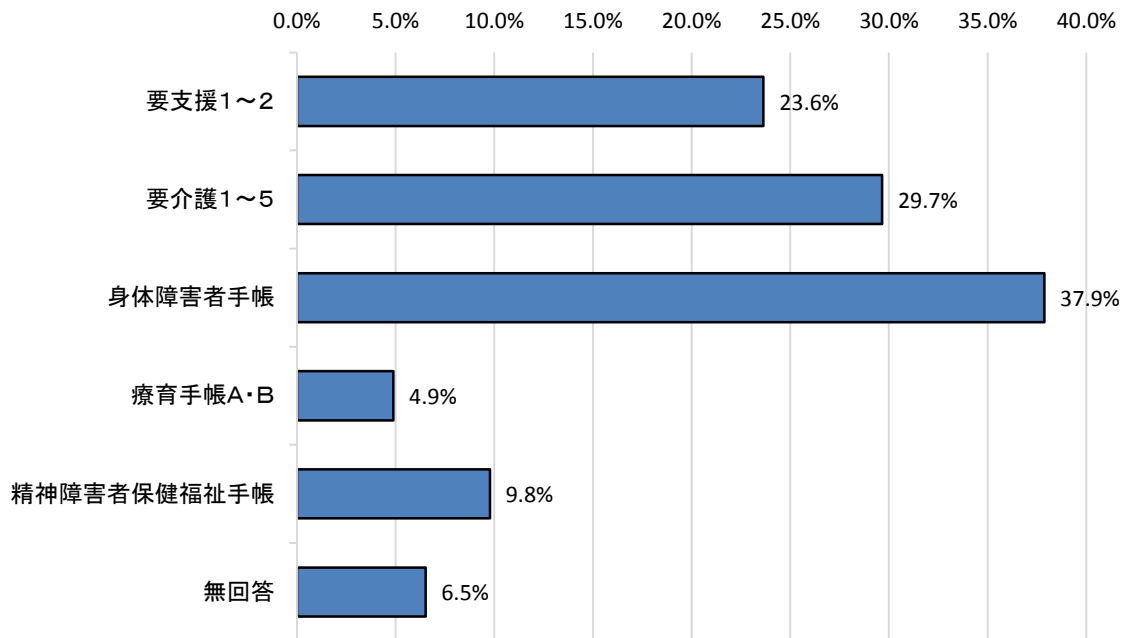
全体の12.8%が「介護保険の認定や障害者手帳を持っている」とし、男性は12.4%、女性は12.9%である。

また、男女ともに年齢区分が上がるごとに介護保険の認定や障害者手帳を持っている人の割合が増加する傾向があり、男性の80歳以上では40.6%、女性の80歳以上では51.2%となっている。

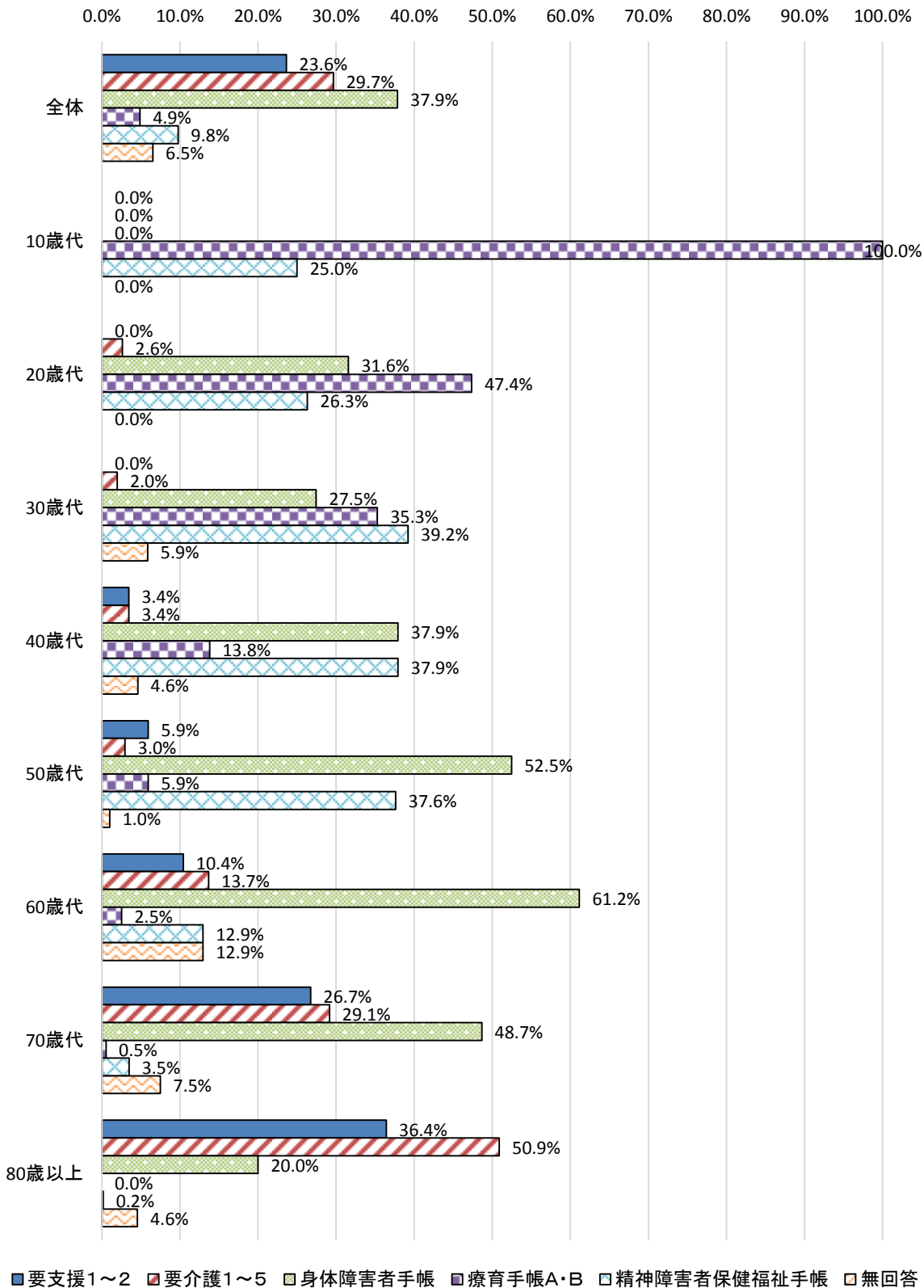


## 介護保険認定者・障害者手帳所持者の内訳 (MA)

「身体障害者手帳」が 37.9%と最も高く、次いで「要介護1～5」が 29.7%、「要支援1～2」が 23.6%となっている。

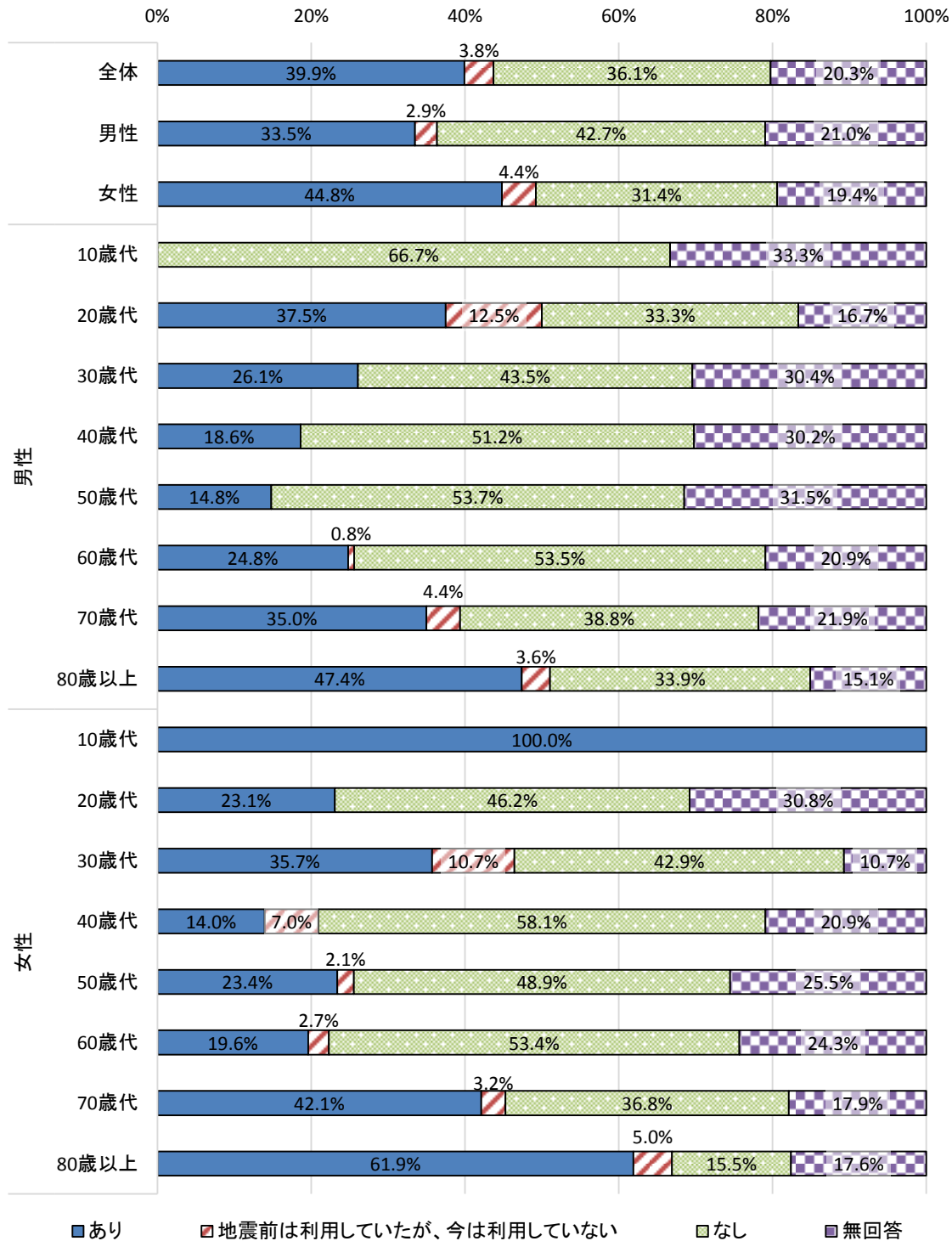


年齢別に見ると、年齢区分が上がるごとに「要支援1～2」・「要介護1～5」が増加している。80歳以上では「要支援1～2」が36.4%、「要介護1～5」が50.9%となっている。

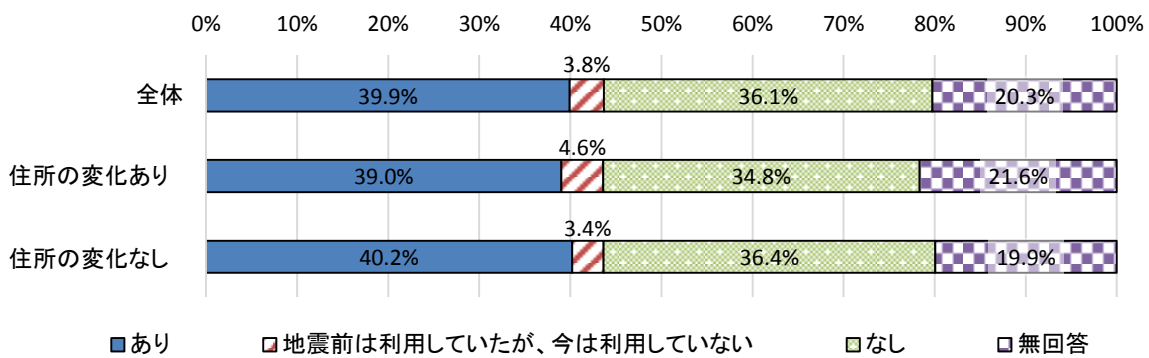


サービス利用の有無  
(SA)

全体の39.9%が地震後もサービスを利用しており、3.8%が地震前は利用していたが、今は利用していないとしている。また、地震後もサービスを利用している割合が最も多かったのが80歳以上の女性で61.9%である。



住所の変化で見ると、住所の変化があった人で地震後もサービスを利用している人は39.0%、住所の変化がなかった人は40.2%と住所の変化がなかった人の方が高くなっている。

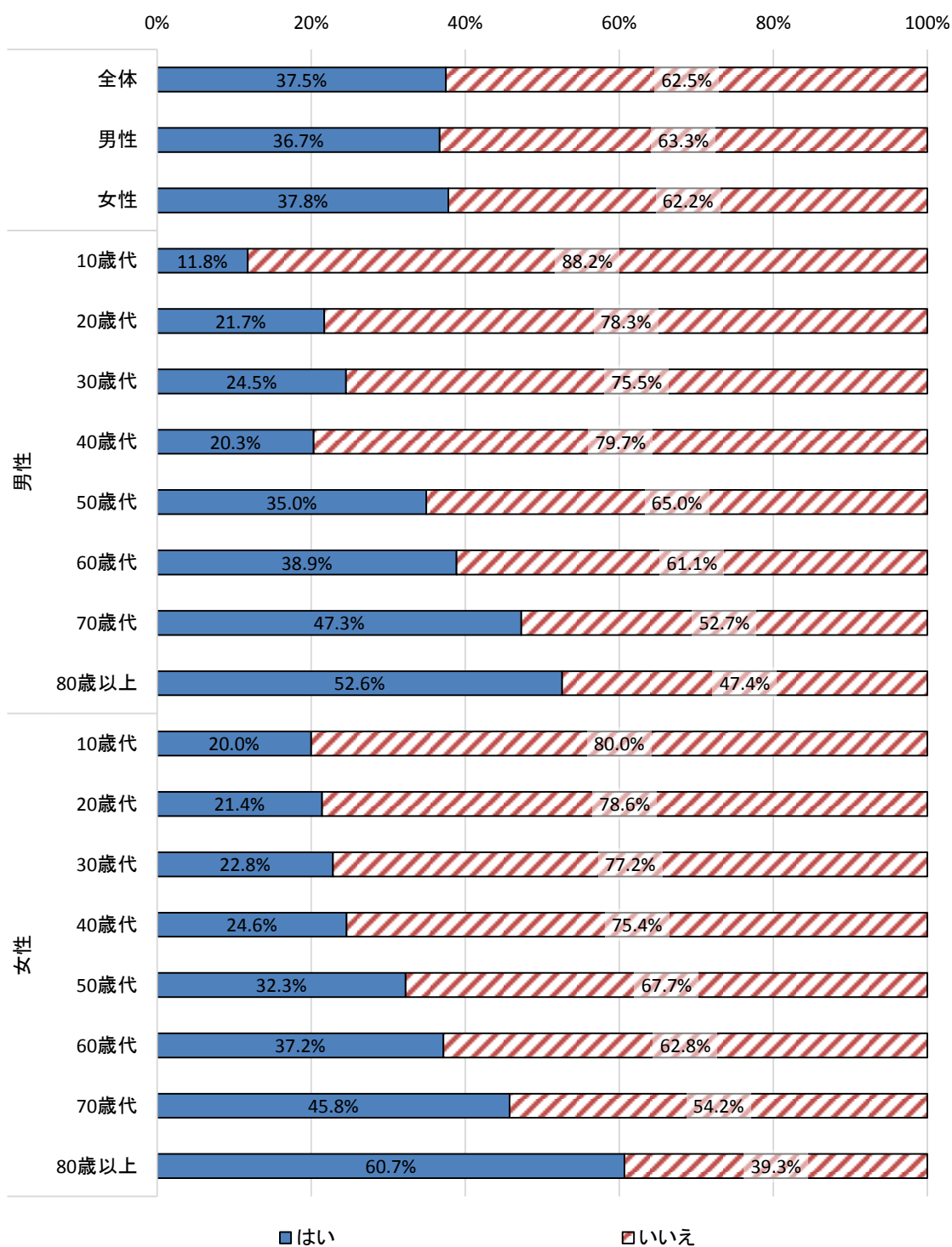




## (10) 健康面での気になること

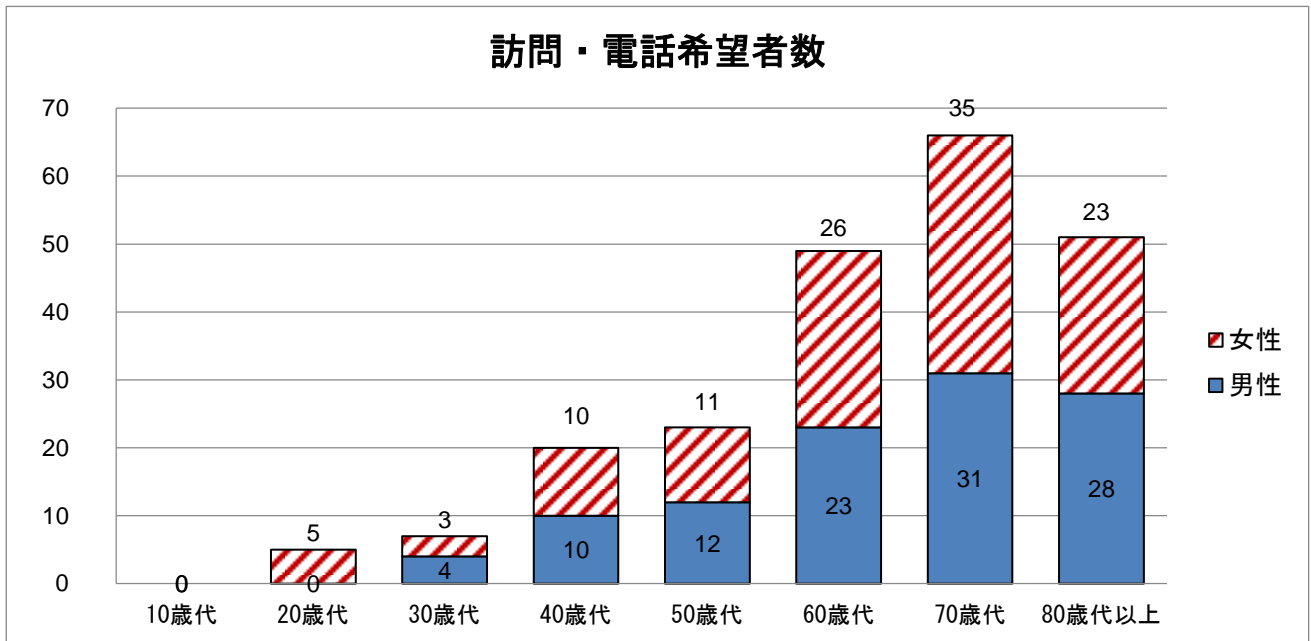
市町村、保健センター、地域支え合いセンター、医療機関等への相談の有無  
(SA)

全体の 37.5%が市町村、保健センター、地域支え合いセンター、医療機関等に相談しているまたはできており、男性では 36.7%、女性では 37.8%である。また、年代が上がるにつれて、相談しているまたはできている割合が高くなっている。



## 保健師等による訪問や電話相談の希望の有無 (SA)

全体で 227 人が保健師等による訪問や電話相談を希望しており、男性が 111 人、女性が 116 人である。年代別にみると、60 歳代～80 歳以上の希望者が 167 人以上おり、高齢になるほど希望する傾向にある。



※集計対象は、8月31日までに郵送到着したもの。

